

# ひょうご経済・雇用活性化プラン推進会議 [第3回] 議事要旨

I 日 時 令和元年12月23日(月) 16:00~17:30

II 場 所 兵庫県公館第1会議室

III 出席者

構成員：13名(別紙1のとおり)、オブザーバー：兵庫労働局長  
県：知事、産業労働部長 他

IV 次 第

1 議事：令和2年度の施策展開

V 主な内容

1 開会

2 知事あいさつ

3 議事

(1) 当局資料説明

当局から議事に関する資料を説明

(2) 意見交換

別紙2のとおり

(3) 知事コメント

## 出席者（構成員）13名

岩本 芳昭	日本製鉄株式会社広畑製鉄所 副所長兼生産技術部長
植山 展行	植山織物株式会社代表取締役社長
小田垣 栄司	株式会社ノヴィータ代表取締役会長
加藤 恵正	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授
國井 総一郎	株式会社ノーリツ代表取締役社長
坂本 昌文	洲本外町地域まちなか再生協議会会長
田中 裕子	兵庫県経営者協会副会長
土谷 千津子	社会福祉法人きらくえん理事長
鶴井 昌徹	株式会社神戸工業試験場代表取締役社長
畑 豊	兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科教授
福永 明	日本労働組合総連合会兵庫県連合会会長
本丸 勝也	兵庫ベンダ工業株式会社取締役
吉田 智一	シスメックス株式会社執行役員

## 議事要旨（意見交換）

## ○ A委員

東京に若い女性が出て行ってしまうのが課題だということですが、実は、高校生は、ツイッターやインスタグラムで県や各地域の取組を見えています。それは自主的に見ているのではなくて、コミュニティの中で勝手に流れてくるものです。その中で、東京だけではないですが、プロジェクトベースラーニング（PBL）みたいに、その地域と大学生と一緒に何か課題解決をやっているという、非常に見た目がよく、わくわくするような内容が出てきます。どうしてもそういう地域に行って何かをやってみようというそんな気になる一方で、それを見ると兵庫県は真似をしているものが多いと思ってしまうようです。中身は同じような話なのかもしれませんが、見た目も含めてわくわくするような内容を、実は高校生でも見ているということを知って新鮮でした。

## ○ B委員

次世代成長産業においては、神戸、兵庫にしかないものとして、川崎重工、シスメックスが取り組んでいる医療ロボットが、特に注目を浴びるのではないかと考えています。それに応じた形で、我々は地域医療として医療セクターにいますので、いかに地域産業として進めていくか考えており、ベンチャーをこちらに呼ぶようなこともやっています。まずは成長産業を基盤として、どうやってここでスタートアップさせるかというのが、今、大きな企業としてできることかと考えています。

人材に関しては、幸いなことに、東京、関西、九州、東北からの採用が増えています。それは企業としての魅力も当然あると思いますが、話を聞いてみると兵庫が暮らしやすいという方が多いですし、それもあって離職率も低くなっていると思います。

また、いかに魅力あるものを魅力ある形で伝えるか、どのように双方向のコミュニケーションを取れる形にできるか、というところです。特に兵庫県は県北部、中部、南部と、それぞれ特色を持っていますし、観光型・体験型の資源もありますので、医療ツーリズムが非常にやりやすい地域ではないかと考えています。

大学や行政の協力がなければできないと思いますが、経済・雇用活性化プランを基軸に、我々はヘルスケアの分野で実践させていただければと思っています。

## ○ C委員

二点あります。若い女性が東京へ出て行くという課題について、出て行ったのはなぜなのか、というところが一つの視点になるのではないかと考えています。観光客も同じことかと思っています。神戸、兵庫を選ばなかったのはなぜなのか。知らなかったのか、他に魅力があったのか。そういうところを見ていくと、もう少し何らかの視点が出てくるのではないかと考えています。

もう一点、資料の中でドローンの利用というのがありました。我々の会社でもいろいろ検討しているのですが、うまく使えば、利用価値はたくさんあるのではないかと考えています。

いかと思っています。

## ○ D委員

地場産業の播州織に携わっていますので、その観点からお話しします。実はイギリスのモノクルという雑誌に載ったことがあります。我々は中国、アメリカはLA、ヨーロッパはフランス、タイに法人がありまして、イギリスの雑誌でたまたまPRする機会を得たのですが、それを見た中国人が生地を買いに来るということがありました。中国の会社も、こちらの地域環境が良いことを自分たちのホームページに載せて売りたいと言って、当社へ見学に来て、地域のPRをしていただきました。そういう広がり、特に影響力が大きい媒体は、すごく発信力もあるので、非常に活用できるのではないかと思います。我々もブランディングとしてやっていきたいと思っています。

## ○ E委員

世界からオーダーが来ているという話がありましたが、兵庫県、私の地元の豊岡市もそうですが、あまりに知られてなくて、旅行に行くときに、選ぶか選ばないではなくて、知らないから選ぶこともできないというのが現状だと思います。

豊岡市に、演劇や観光をテーマに据えた大学ができます。先ほど医療ツーリズムの話もありましたが、私は東京で研修旅行をよくサポートさせていただきます。その事業者が、新入社員や昇進する社員を集めて行く先というのは、長野や山梨です。やはり東京から一本で行けるところにほぼ限られてきます。ただ、コンテンツの中身が、そこにある必要はあまりなくて、東京の講師が受講者を缶詰にするのにふさわしい場所として、電車一本で行けるところを選んでいるに過ぎません。というところで、例えば、医療や演劇というものが、企業研修に、すごく有効なのではないかと思っています。

観光というキーワードの中で、一般のお客さんに来てもらうより、まずは企業に知ってもらう方が、プロモーションをかけやすいような気がしています。例えば、旅行代理店を営んでいるところ而言えば、数もぐっと絞れるし、研修旅行を企業向けに開発しているところもぐっと絞れるので、そういうふうにターゲットを絞って行って、医療ツーリズムであったり、研修旅行を企画してみませんかということを、県と一緒にやっていくことができれば、もっと知ってもらえるのではないかと思います。

## ○ F委員

兵庫県というのは五国から成って、550万人の人口がいて、20兆円ぐらいのGDP規模ということで、本当に巨大な県です。その中でいろんな産業がありますが、ものづくり県と言われてきて、ものづくりの企業が今、弱ってきているというのが現状ではないかと思っています。やはりものづくりの企業を強くすることが非常に重要だと思います。

兵庫県の施策というのは、本当に網羅的にしっかり施策があると見ています。た

だし、アピールできてなくて、知られてないというのが非常に残念だと思っています。

例えば、資料1の2ページ目にある金属新素材研究センターですが、ほとんど知られていません。センターを活用することで中小企業は非常に効率が上がりますし、知られてないというのは非常に残念です。資料1の4ページ目にある高校・大学生の県内就職の促進については、私も神戸経済同友会で、高校や中学校に経営者が行って研修をしようということをやりましたが、全然オファーがありませんでした。そういうふうに行っていることがほとんど知られていません。それから、障害者雇用についても、兵庫県は特例子会社など非常によく取り組んでいますが、知られていません。

県内の企業を強くするためのポイントみたいなものを、「ものづくりの会社に対してはこんなこと」というように、もっとアピールするやり方を考えれば、変わってくるのではないかと思います。これだけまとまっている施策があるので、知ってもらって具体的に実行することが大事だと思います。

## ○ G委員

田舎では仕事の範囲と暮らしている圏域がほぼ一致していますので、サラリーマンや事業をして働きながら、まちに対しての活動も熱心にやっています。私自身もここに来ているのは、自分の仕事ではありません。そういう活動をしていたり、参加している人たちを支えていくために、一番苦勞している部分である事務局に対して支援をしていただけたところがないかと考えています。

事業に対する県の支援はたくさんありますが、それを使うための手続きや報告などに長けている人がなかなかいません。施策のお願いとしては、人（事務局員）を雇用することに対しての支援や、事務手続きを支援するための人の派遣制度などがあればと思います。ただ、会議所や市役所にそういうことをやれと言っても、他の仕事を持っていて、なかなかうまくいきませんので、専任できるような人がいればありがたいと思っています。

## ○ 座長

人への支援、事務局的なサポートというのは、我々の領域では、隠れた費用と書いていますが、結構それは大きいです。スムーズに動かすためには、そこにサポートの手が入るとよいかもしれません。

## ○ H委員

先ほどお話があったように、事務手続きの何が大変かというと、行政に提出する書類の多さです。入札の準備にしても、従来通りの紙ベースで動いていると、ものすごい負担になっています。全国で行政関係の仕事をしていますが、細かい仕事が多いので数も多く、その書類だけでキャビネットいっぱいのファイルが揃います。市町村や県によって様式等が全く違うので、書類を揃えるために、3か月ほどアルバイトを2人雇って1年分をこなす、といった感じになります。起業の場所という

だけでなく、そういうところをきっちり支援してもらえるようなものであれば、きっと喜ばれるのではないかと思います。

それといつも申し上げていますが、とても残念なのは、早くから神戸市も兵庫県も起業家支援をいろいろやっているにもかかわらず、そこで成功した人達のことを発信されていません。学生はちゃんとそういうところをネットワークで知って、遊びにやってきてそのまま就職もします。もっと宣伝すれば、兵庫県はそういうところなんだと人が集まってくるのではないかと思います。魅力を発信するところが抜けているのではないかと思います。

それから、若い女性が東京に行ってしまうということについては、私の子供は全員が兵庫県に戻っていて、やはり住みやすさのことを言っています。東京に転勤になっても、週末の月曜日と金曜日だけは大阪勤務を会社をお願いして、週末は家族と過ごせるようにしてもらっています。そういうことも可能ですので、仕事は東京がいいのかもしれませんが、兵庫県としては住みやすさをもっとアピールしたらいのではないかと思います。

女性が県外へ出て行ってしまうのは、管理職比率が非常に悪いとか、就業率が悪いというような統計資料を見ると、女性があまり大事にされていないために、就職をしたがらないのかもしれませんが、優秀な女性は、東京の方に行ってしまうような気がします。今は、兵庫県内でも女性管理職がどんどん増えていますので、女性にとって魅力ある会社をもっと宣伝していただけたらと思います。

## ○ 1 委員

私も兵庫で生まれ育ちまして、本当に暮らしやすいと実感しています。周りの友人たちに聞いても、女性はほぼそのように言っていました。おいしいものもあるし、環境にも恵まれていますし、治安もとてもいいと思います。ですから、働きやすい環境をどう作るかというのは、非常に重要だと思います。

高校生の子供が、学校で学んだことをいろいろ話してくれるのですが、先々月は、神戸市内の観光をどう外国人にアピールするかを、みんなで考えるフィールドワークをしていました。こういったところから、将来にいろいろ繋がっていくのかなと思います。つい2日前は、24歳で起業された女性の経営者の話を学校で聞く機会があって、帰ってきて興奮ぎみに話をしていました。そういう機会を得ることは非常に重要であるし、機会がどんどん増えているのではないかと実感しているところです。

実は、私もこの会議を通じて、地場産業の魅力を兵庫県民として実感したいと思い、神戸市主催の灘の酒大学に通っているところです。やはりそういうことに直に触れますと、自分の言葉で実感して、また次世代に伝えていけるような経験になっています。学校で地場産業の全国的なシェアなどを学ぶ機会があると思いますが、いろんな事業の中での苦しさや楽しさ、魅力を体験してもらうには、やはり就労体験であるとか、現地に行って話を聞くことが、非常に重要ではないかと思います。中学生のトライやるウィークのように、小中学生の早期の段階から就業意識を醸成するというのも重要ですが、高校生になったら、よりリアルに自分の将来を描くと

思います。就職先を考えるとときに、体験ということをもっと取り入れた方がいいのではないかと実感しています。

## ○ J委員

外国人労働者の状況についてお話しします。私は中小企業の社長ですが、同じ中小企業の社長の仲間からは、近年、外国人材がいなかったら、なかなか仕事が成り立たないという話をよく聞きます。これまで外国人材を採用してなかったような中小企業も、人手不足解消のために、外国人材に狙いを定めて、社長自らがベトナムやミャンマーに直接出向いて、人材を確保するといった動きが増えています。特にベトナムは優秀な人材がなかなか残ってないという話も聞きますし、取り合いになっているような状況です。

当社では、以前は、日本の大学に通う外国人留学生で、大学の先生に紹介してもらって入社した人が1、2名いた程度でしたが、ここ3年ぐらいで、外国人材が急に増えて今は9名います。全員が専門職や技術職として、他の日本人の社員と同じように、長く働いてもらうことを前提に採用しています。国籍は、ミャンマーが4名、韓国が4名、シンガポールが1名という状況で、男女の比率は半々ぐらいです。採用の時点である程度日本語を話せることを前提としているため、日本語のコミュニケーションは日常生活にほぼ問題がないレベルです。

この狙いとしては二つありまして、一つは今後の海外展開を見据えた採用です。もう一つは、今後の少子化を見据えて、日本人の技術系人材の確保がますます難しくなってきますので、今のうちに外国人材を活用できるか見極めたいということです。当社で採用した海外人材は、それぞれ韓国やミャンマーでも優秀な大学を卒業していますので、総じて能力が高く、仕事に対する姿勢も非常に貪欲で、周りの日本人の社員にいい影響を与えてくれています。

先日、社内の外国人材を集めて座談会を行い、行政や会社のサポートで不足していることや、要望がないかヒアリングしました。社内にいる外国人材9人で、いつの間にかコミュニティができていて、その配偶者もコミュニティの中に入って、休日と一緒に過ごすなど、あまり困っていないことがないという話でした。県内にいる同じ国の人の繋がりというのも、行政が用意したものではなく、自分たちで探して、SNSなどを通じてできているということで、心配がいらぬ状況でした。

一部要望として出てきた内容を紹介しますと、自治体などで外国人用に生活ルールをまとめたハンドブックをもらったりしますが、それだけでは不十分な点があって、外国人向けの講習のようなものがあればいいという話がありました。例えば、社内では自転車通勤の人には自転車のルールを教えますが、休みの日に自転車に乗る人や、奥さんが自転車に乗るとい人に対しては、そういったことまで伝えてないので、そういった話を聞ける場があったらいいという話がありました。

今後も外国人材の採用は増えていくと思いますので、行政として今やっているようなセミナーや採用支援は引き続き行っていただきたいと思っています。当社の外国人材は、日本語をある程度話すことができますので、生活支援というところで、あまり行政の支援というのを必要とはしていませんが、ある程度、年数に縛りのあ

る外国人材であるとか、あまり日本語が得意でない外国の方に関しては、いろんな生活のサポートは必要かと思っておりますので、そちらについても引き続きサポートをしていただければと思っています。

## ○ K委員

資料1の2ページに、健康・医療というところがありますが、今、健康・医療というデータヘルスです。データヘルスは、今、三井住友銀行が主になって進めている情報銀行という方向性と、日本の医師会が主になって進めているものの、二つの方向性があります。データヘルスの情報と行政の住基情報が重なると、ものすごいデータになりますので、どちらにも大きなメーカーが与しつあります。

実は、姫路ぐらいの都市が、住民の出入りが激しくなくて、解析しても有意な結果がすごく出やすいです。都市部は人口の流出が激し過ぎて、1、2年経ったらいなくなる患者がたくさんいますので、データを取っても仕方がないところがあります。姫路市は住基データのネットワーク化などのシステムが非常によくできていますので、そこに、データヘルスの仕組みをつくり上げると、IT企業が集積し、解析の専門家が集まってくるという話も聞きます。

今、たくさんのデータ解析がありますが、そのほとんどが商用データです。商用データに関しては、解析するツールがたくさんあるのですが、まだ医療・健康系のデータに対して強いというところはありません。最近、京都大学から出たベンチャー（一般社団法人ライフデータイニシアティブ）が、個人情報全部消した状態で医療データを取り扱う施設として、厚生労働省から認められました（次世代医療基盤法に基づく事業者の認定）。そういったデータも必要とされるでしょうし、やはり重要なのは住基データが絡むと、ものすごい情報になるということです。それを一つの産業の起爆剤にできる可能性は十分にあると思っておりますので、ぜひ医療・健康のところ、在宅医療というだけではなくて、データヘルスという言葉を含んでいただければありがたいと思います。

## ○ L委員

中小企業の経営強化、あるいは魅力づくりという観点でお話しします。働く側から経営を見て、不合理な取引の是正であるとか、サプライチェーン全体で生み出した付加価値を適正に配分していくような仕組みがなければならないのではないかと思います。

これから人手不足がさらに深刻な状況になっていきますし、各企業にとっては、人材の確保・定着・育成がますます重要な課題になってくるということです。加えて、来年度になれば、働き方改革関連法案の本格施行となりますので、時間外労働の上限、時間規制問題も、中小企業に適用されていきます。同一労働同一賃金についても、法対応していかないといけません。また、取り巻く環境から見ると、無期転換ルールにも対応していかないといけません。また、人生100年時代、いわゆる65歳以降、70歳までどうやって働く機会を確保していくのかという問題や、育児や介護あるいは治療と仕事をどうやって両立させるのかということからすると、これも



企業の規模にかかわらず、多様な働き方の仕組みを整えていかないといけない状況になってきます。そういう観点からすると、中小企業の経営基盤強化のために必要な原資を確保するということからすると、適正な取引関係が必要ではないかと思っています。

取引の話なので、具体的な施策の中に折り込みづらい面があるのですが、働く側の立場からお話しさせていただきました。

## ○ F委員

先ほど外国人材の話がありましたが、当社も当然、外国人材はワーカーも技術者も採用しています。兵庫県立大学では、国際商経学部や「i-Square」（国際学生寮）など、神戸商科キャンパスの方は非常にいい設備で整っていますが、ものづくり県というところで行くと、姫路工学キャンパスの方にもベトナムやタイなど留学生が多いので、そういう留学生をしっかりと確保して、兵庫県の企業とマッチングさせていくことが非常に重要ではないかと思っています。

それがいろんな中小企業の海外進出に繋がっていきますし、県立大学のようなところで外国人の技術者や専門家を養成して、企業とマッチングしていくことは、これからの人手不足対策や、企業を強くしていく意味でも、非常に重要なことだと思います。

## ○ 座長

高砂市にある会社でお話を聞きますと、県立大学のMBAから何人か採用していただき、中国の人ですが、もう幹部になっています。積極的に採用される理由の一つは、F委員がお話しになったように、これから中国に進出する上で、やはり中国人に幹部になってもらうことで進出しやすくなるということがあるそうです。そういう意味では、これから外国人材は、ワーカーも含めて、そういう幹部としても、非常に重要な役割を果たすと思います。

## ○ オブザーバー

女性の活躍促進ということに関連して、一旦出ていった若い女性が戻ってくるにはどうしたらいいかという議論と関連がありますが、資料1の4ページ目に、新規の事業として、首都圏の女子学生等に対する県内企業の情報提供というのがあります。これは非常に大事だと思います。統計によりますと、兵庫県内の大学生のうち、6割は県内で就職したいけれども、実際に県内就職している方は3割です。基本的には、地元志向はかなり強いわけです。結果として出て行ってしまっていますが、それを戻していくには、県内企業の情報提供が非常に大事だと思います。

特に女子学生にとっては、就職する企業が、女性の活躍を本気で考えているかどうか、非常に大きなポイントになっています。例えば、出産、育児をしながら働き続けることができるかどうか、本当に将来は幹部として活躍できるのか、その辺りの踏み込んだ情報をしっかり発信していくことが、やはりこの県内企業の情報提供にあたっては大事ではないかと考えています。

もともと兵庫県の企業には、兵庫県自身が暮らしやすいというメリットがあるわけですから、それに加えて、この県内企業の情報提供の中で、女性活躍がどれだけしやすい企業なのかということ、ぜひ具体的にアピールしていただければ、首都圏の女子学生に響くのではないかと考えています。

## ○ 座長

皆さんのお話をお聞きして、非常に刺激を受けました。私の研究領域である地域産業政策や経済政策では、ますます地域のこうした領域の政策の重要性が大きくなってきていると言われていています。様々な視点からポイントをご指摘いただいたような気がしています。

最近経験したことを申し上げます。カタールフレンド基金という基金が作った「東北イノベーションセンター」というところへ行ってきました。インキュベーター、起業家を養成する施設として作られ、大変重要な役割を果たしていますが、現地でディレクターにインタビューを始めると、彼が最初に言い始めたのが、起業家の養成というよりも、小学生や中学生に起業のトレーニングを体験してもらっているということでした。小学生に起業のトレーニングをしなくてもいいのではないかと思いましたが、お話を聞いているとびっくりしました。要するに、子供たちに失敗の経験をさせるといことです。大概そういうところでは小学生がうまくできたら褒めて終わるそうですが、そこでは朝から晩までぶっ通しで、とにかくお店をつくる、会社をつくるというところまで子供たちにやらせるそうです。その中で、子供たちがずっと失敗を続けます。そこには政策投資銀行の銀行員も来ていて、小学生が資金を確保するために本気でやりとりをずっと言っていました。

そこで彼らが言っていたのは、まず、被災した仙台、東北を起業のまちにしたいということです。次々にビジネスが起こってくるような社会にしたい。それはそれでダイレクトにもやっているけれども、まず子供たちにそういう風土、雰囲気を持ってほしい。失敗することによって、その人の幅も広がり、進化していく。彼らが言うには、東北全体が古い体質を持っているので、仙台、東北がこれから新しいものを生み出していくために、こういうところから突破口を作りたいと言っていました。

そういう意味では、今、日本が抱えている問題そのものであり、人を育てるといことは、地域が変わっていくということで、実は起業家として大活躍される人の背後にそういう子供たちがいるのかなと思います。中学生がやっているトライやるウィークも多分そういう突破口を開いていると思いますし、そのあたりをより進化させる形で、かなり長期な視点が必要ですが、兵庫県の産業風土のようなものをこれから考えていくことも大事ではないかと思いました。

(以上)